小金井市環境市民会議

2008. 03

みんなで考える小金井の環境マガジン

#7

くるりん・ぱ

kururin.pa

www.koganei-kankyo.org/

グレンちゃん
ぐれてるワルだけど
さみしがりや。
クリンちゃんとは
おともだち…？

Lモンちゃん
元気いっぱい！
ケンカっ早くて意地っぱり。

初登場！
12ページをみてね。

ままも…
クリンちゃん
無口で
はずかしがりや の
キレイ好き。

特集：小金井と地下水

――黄金の水を次の世代に伝えるために――

小金井という地名は、正平7/観応2（1352）年、閏（うるう）2月20日に足利尊氏と新田勢が戦った古戦場・金井原（かないはら）（今の小金井市南部・前原町周辺）にその語源があるという説や、「はけ」上では水が乏しくて人が住めなかったのに、「はけ」の近くでは湧水があって黄金（こがね）に匹敵するため黄金井（こがねい）と呼ばれていたとか、府中の金井家の分家ができて小金井と呼ばれたなど、語源にはさまざまな説があります。

現在の貫井神社の湧水があたたかくて「温井（ぬくい）」と呼ばれて重宝がられていたように、どうやら「黄金に値する水が出る」黄金井が転じて、小金井になったという説が有力のようです。

では、その「黄金に匹敵する水」はどのように生まれ、どのように湧水になっているのでしょうか。

小金井市を東西にぬける「野川」は、更新世時代（ほぼ旧石器時代に相当＝氷河期）の古多摩川の川道であるとされていて、古多摩川が通らなくなったあと、国分寺崖線（がいせん）の湧水を集め、崖線に平行して流下するようになったと考えられています。実際に、ローム層の下には、古多摩川がかたちづくった礫層（れきそう）が存在していて、そこを地下水が流れているということです。

「水と緑のまち」といわれている小金井市では、地下100～300mから汲み上げている地下水（井戸水）を、水道水の約67%に使用しています。深いところの地下水は、なかなか目にすることはできません。しかし、地下10m程度の浅いところにある地下水の目安となる「湧水」は、年々減少しています。また野川では毎年のように渇水が起きています。

現在の野川（小金井市内）

大切な地下水がどうなっているのかを調べるために、日野市、国分寺市、東久留米市などでは、市民や行政によって定期的に地下水の測定が行われ、地下水の状態を知ろうとする活動が進められています。

小金井市環境市民会議では、平成18（2006）年10月から、市と協力し法政大学工学部の山田啓一教授のご指導をいただき、市内16ヶ所の井戸で水位測定を始めました（平成20年1月現在17ヶ所）。各井戸毎に毎月1回ずつ、少なくとも10年以上のデータベースを作っていく予定です。

（次ページにつづく）

環境講座

「野川と地下水」レポート

日時＝2008年2月10日（日）
13：30～16：30
場所＝前原暫定集会施設B会議室

共催＝小金井市環境市民会議・小金井市

会場の様子（左）と講師の山田先生（右）

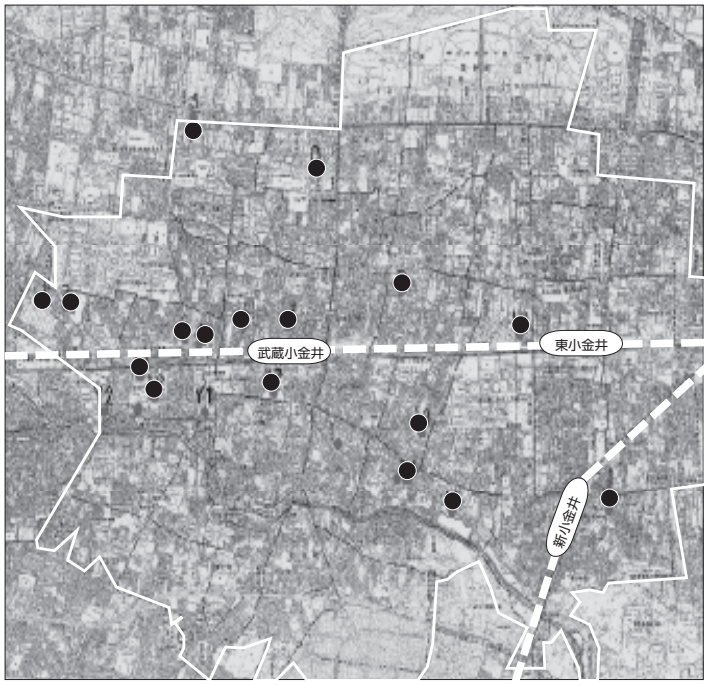
2008年2月10日（日）、「野川と地下水」と題し、法政大学の山田啓一教授を迎えて環境講座を行いました。3連休の中日にもかかわらず、40人をこえる参加があり、関心の高さがうかがえました。

まず環境市民会議の地下水測定部会から、実際の地下水測定の方法、約1年3ヶ月間にわたり蓄積された測定データ、さらに測定データから読みとれる考察として「小金井は効率の悪い貯水池」という仮説が披露されました。それに対して山田先生から、「地層や地形、そして5万年～10万年前の古水流と現水流を長年にわたり丹念に照合したうえで、小金井の水系は、むしろ補給量の多い貯水池とも言える」というご意見をいただき、また調査に対しては、あまり種目は広げずに、末永く調査を継続してほしい、という助言も加えられました。

続く山田先生の講演「野川の古水流と湧水」では、野川の水流の下には武蔵野周辺に広く流れていた古水流があったという研究成果が、グラフィックな地図とともに紹介されました。その後のフリーディスカションでは、会場から「都市開発とデータの相関関係を調査すべき」「（今の小金井のまちは）古水流が叫んでいるようだ」「水は涸れるときは涸れるもの」などの意見・指摘がありました。

この講座開催で「参加者の中から2人、調査に参加したいと申し出があった」と、地下水測定部会のメンバーが喜んでいたことを付記しておきます。

地下水測定部会の活動報告



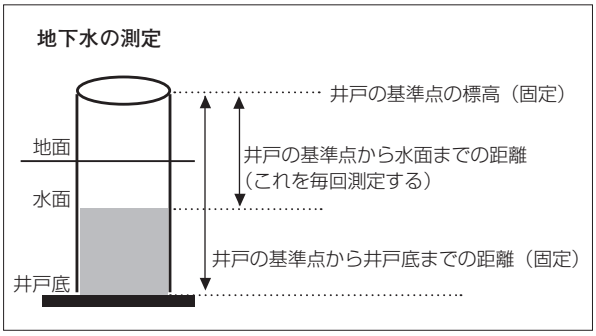
地下水の水位測定をしている17の地点

（1）地下水の測定方法について

測定は4チーム、44名の会員が中心となって行っています。測定には以下の道具が必要です。

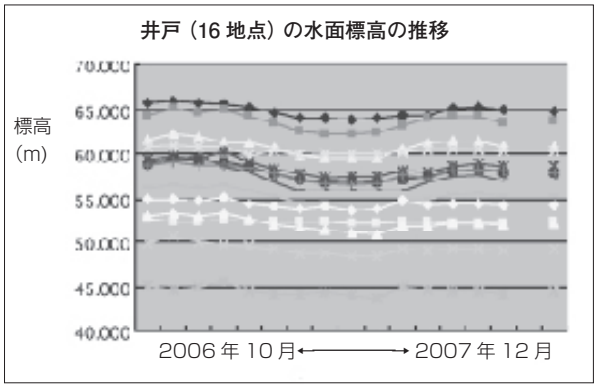
・コード（25m、センサー・目盛り付き）
・テスター　・メジャー　・筆記用具
・記録用紙　・井戸の基準点の写真
・身分証明用名札　・測定完了カード

測定は、井戸の中にコードを垂らし、水面に反応した地点までの距離を測定することで、井戸底から水面までの数値を求めていきます（下図参照）。



＊この特集は地下測定部会の方々の原稿をもとに、編集部で構成したものです

（2）測定データ（1年3か月間）の考察



1年3ヶ月のわずかな期間の井戸水位測定データですが、次のようなことが読みとれます。

①小金井市内の武蔵野台地では、井戸水面の標高は西側が高く、したがって地下水は大まかには西から東側へ流れている。

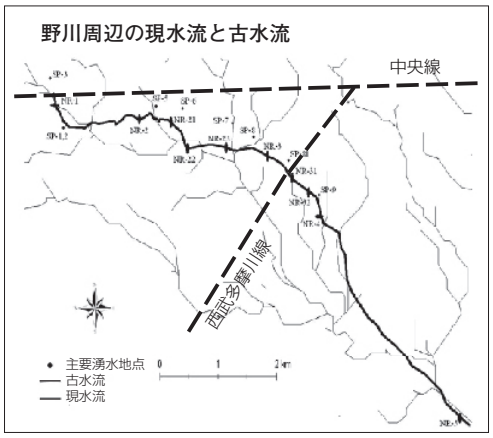
②ハケ（国分寺崖線）に近い井戸では水位の変動幅が小さく、降水に対するレスポンスが小さい。

③多くの井戸で、水位の月変化量は前月の降水量に強く依存している。

④多くの井戸で、水位は過去4ヶ月の月間降水量の和、あるいは平均値に強い相関を示す。このことから、井戸水（地下水）の多くは、過去4ヶ月分の雨が蓄えられたものと考えることができるのではないか。

地下水（井戸）の水位測定は、井戸の所有者の全面的なご協力で成り立っています。ご協力いただいている方々に深くお礼を申し上げます。測定の結果は、市役所第2庁舎の玄関の掲示板に掲示するとともに、小金井環境市民会議のホームページにも掲載しています。また、年度ごとに測定結果をとりまとめ、報告書を作成していきます。

野川の古水流と湧水（法政大学・山田啓一教授の講演資料より）



各地で出された建築確認申請時の添付書類などをもとに、地表水と地下水の交流関係について、地形・地質解析を行ってみると、古代の地下水流の姿が見えてくる。小金井市の野川周辺の「古水流」と「現水流」、および「主要な湧水地点」は左図のとおりである。

これからも地味に事実を積み重ねよう！

井戸水位測定は多くの人の協力で実現したものです。大切な井戸を開放してくだった市民、所有者と交渉してくれた小金井市役所、測定メンバー、さらにアドバイザーとしての法政大学の山田先生、どれ一つ欠けてもうまくいっていないと思います。まさに環境市民会議の「模範的部会（？）」と自負しています。測定班としては「地味に事実を積み重ねなさい」との山田先生の指導に基づき、今後も測定を継続していきたいと思っています。（地下水測定部会・藤崎正男）

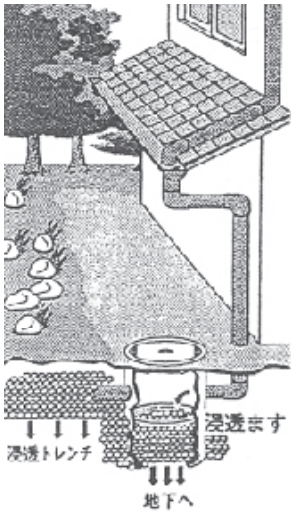
雨を活かす（おはなしその1）

都会に住むと、人は自然に生かされていることを忘れてしまいがち……。雨が降ると憂鬱な気分になり、雨水は貴重な資源ということも忘れてしまいます。そんななか、小金井市では雨水を地中に戻す事業を行っています。今回はそのお話です。

昭和63（1988）年9月、小金井市は「雨水浸透施設の技術指導基準」をつくり、雨水を敷地内施設で処理するため、屋根雨水を浸透ます等で地中に還しています。

ほとんどの浸透ますは、小金井市が考案した側壁に小穴を多くあけている多孔型浸透ますで、施工方法等も独自性を持っており、これを「小金井市式雨水浸透ます」と呼んでいます。この多孔型浸透ます等を設置することで、雨水と一緒に酸素も地中に供給されるため、微生物の活性化などで土の栄養分が豊富になり、養分の豊富な地下水が湧き水となって還ってきます。

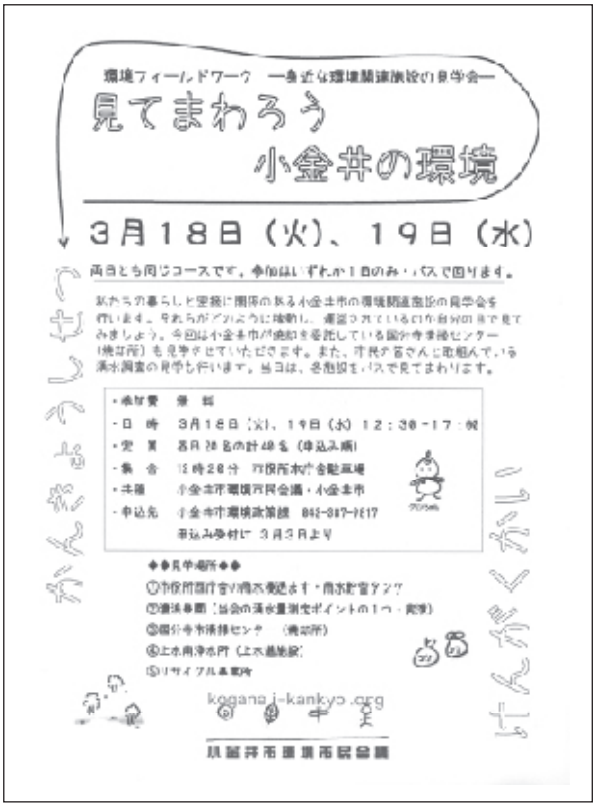
雨水浸透ますをつける人と工事をする人の理解・協力があり、市内で設置可能な建物の2軒に1軒が雨水浸透施設を設置（平成19年末で浸透ますは54,600個）しています。この取り組みが評価され、平成13（2001）年には第3回日本水大賞のグランプリを受賞しました。この設置率は事業の先進国であるドイツやスイスの各都市を上回り、世界に誇ることのできる事業となっています。（文＝小金井市下水道課・倉宗司）



施設見学ガイド

見てまわろう 小金井の環境

小金井市内には、市民の生活に直結している環境施設がたくさんあります。3月18日と19日にそのいくつかを見学し、暮らしを見直す、まちづくりを考えるヒントにしたいと思います。以下に、見学場所を簡単にガイドします。


環境フィールドワーク　―身近な環境関連施設の見学会―

見てまわろう
小金井の環境

3月18日（火）、19日（水）

両日とも同じコースです。参加はいずれか1日のみ・バスで回ります。

私たちの暮らしと密接に関係のある小金井市の環境関連施設の見学会を行います。私たちがどのように暮らし、運営されている自治体の中で見てみましょう。今回は小金井市が委託している国分寺清掃センター（焼却所）も見学させていただきます。また、市民の皆さんと取組んでいる湧水調査の見学も行います。当日は、各施設をバスで見てまわります。

・参加費　無　料
・日　時　3月18日（火）、19日（水）12：30－17：00
・定　員　各日20名の計40名（申込み順）
・集　合　13時28分　市役所本庁舎駐車場
・主催　小金井市環境市民会議・小金井市
・申込先　小金井市環境政策課　042-387-7617
申込み受付は　3月3日より

◆◆見学場所◆◆
①市役所西庁舎の雨水浸透ます・雨水貯留タンク
②湧泉園（当会の湧水量測定ポイントの1つ・見学）
③国分寺市清掃センター　（焼却所）
④上水南浄水所（上水道施設）
⑤リサイクル事業所

kogana-j-kankyo.org

小金井市環境市民会議

●市役所西庁舎の雨水浸透ます

小金井市内の湧水は近年、水量が減少しています。その原因の１つは、都市化によって地表がコンクリートやアスファルトで固められ、雨水が地中にしみこむことのできる土の地表が減ったことだといわれています。湧水を水源とする野川は、冬の渇水期には水底の石が水面上に出るほど水量が減少し、野川に住む生き物たちにとって非常に厳しい環境になります。小金井市では早い時期から、屋根に降った雨水を地中にしみこませる装置として威力を発揮する「雨水浸透ます」の設置を推進しています。その数は現在５万基をこえ、設置数世界一になっています。

●市役所西庁舎の雨水貯留タンク

屋根に降った雨を雨樋を通して集めタンクに貯留し、花などの水やり、庭の水撒きなどに使います。災害時に貯留した水があるのは頼もしいですね。手洗い、トイレなどに利用できます。

●滄浪泉園

広さ約 12,000 平方メートル。国分寺崖線（はけ）下から豊かな地下水が湧出し、湧水を集めた広い池があり、園内は深山の雰囲気が漂います。 元は三井財閥川島さんの別荘でした。環境市民会議では、毎月ここの湧水量を計っています。

●国分寺清掃センター

国分寺市恋ヶ窪にあり、国分寺市民のごみを焼却しています。今年度から小金井市民の生ごみの一部を受け入れていただいています。生ごみの減量が私たち市民にできる第１番目のことですね。

●上水南浄水所

小金井市の上水道施設の１つ。多摩川、利根川水系からの川の水と深井戸からの地下水をブレンドして各家庭に送り出しています。井戸水を飲ませていただけますが、「深井戸の水って、こんなに温かいの」とびっくりする人が多いようです。

●リサイクル事業所

家具などの再生、ペットボトル、缶、鉄などの再生可能ごみの選別、処理をしています。また、生ごみ堆肥化の過程も見られます。私たちが便利に使っているペットボトルが、ここで圧縮され再生工場に送り出されています。見学すると、「ペットボトルの飲み物は買わないぞ！」と誰しも思うことでしょう。

雨水浸透ますを覗きこむ

浄水場の内部（上水南浄水所）

ペットボトルの搬入（リサイクル事業所）

FILM REVIEW

不都合な真実

監督＝D・グッゲンハイム　出演＝アル・ゴア他　2006年

みなさんは、芥川龍之介の『蜘蛛の糸』という作品をご存じでしょう。現在のグローバル経済と地球環境問題を考えるとき、わたしたちはこの蜘蛛の糸の状態にあります。

わたしたちは、グローバル経済の中では裕福で豊かな社会に属していて、「さらに豊かな生活」という天上の国をめざし、蜘蛛の糸のトップグループをよじ登っています。ところがふと下を見ると、中国やインド、ブラジルの人びとが大挙、この蜘蛛の糸をよじ登って来るではありませんか。ずっと下では、アフリカの人びとも、糸につかまってうごめいています。

わたしたちがつかまっている糸―地球環境問題という糸―は、ゴアさんの指摘のように、このままだとプツンと切れるでしょう。では、わたしたちは、下に向かって「登ってくるな！」と言えるでしょうか。ゴアさんの言うように、ひとり一人が小さな取り組みをするのも、まったくの無駄とは言いません。けれども、わたしたちがそのような努力する以上に、中国やインド、ブラジルさらにはアフリカの人びとは、もっとたくさんの消費をしたいのです。グローバル経済の中で、これ見よがしの消費生活を見せびらかしているわたしたちが、数分の一、数十分の一の消費で暮らしている人たちに「それはダメだ」と言えるでしょうか。

「不都合な真実」という映画は、確かに映画としてはよくできていると思いますが、あのＰＲ活動のために、ゴアさんはどのくらい飛行機に乗って、どのくらいの距離を移動したのでしょうか。ゴアさんの自宅は、すばらしく二酸化炭素を排出していたので、大急ぎで改装したということです。このように地球温暖化を「職業」としている人たちは、飛行機や車を使って世界中を駆け回っています。

その一方で、たとえばアフリカでは多くの人びとが貧困ゆえの飢餓にさいなまれ、最大の環境破壊である「戦争」や「紛争」がイラクやパレスチナ、ダルフールでつづけられています。

地球温暖化を語る人たちは、いまここで命を失いつつある人たちのことには、あまりふれたがりません。いま現実に多くの人びとが死んで行く世界がある一方で、地球温暖化を職業としている人たちの間では、二酸化炭素の排出権取引のように、「より汚れていない空気」と「汚れた空気」を取引する「環境ビジネス」までもが生まれているのです。

現在のグローバル経済の枠組みを前提として、現在のような暮らしのあり方に固執する限り、地球の環境はさらに破壊されつづけるでしょう。環境の問題は、いまの経済社会の仕組みを変えるために、みんなが政治行動を起こすことがなければ、解決の一歩も踏み出せないように思われます。科学技術も、あまり環境問題には役立ちません。現在の科学技術は、いまの社会の中で経済的に価値あるものでなければ認められず、先に進めば進むほど新たな問題を引き起こし、袋小路につっこんで行くからです。風力発電だって、大型風車を地表面にずらっと並べたら、どうなるのでしょうか。地球の環境全体は、太陽エネルギーをほどほどムダに使っているから保たれているはずです。

果たしてゴアさんの言葉は、アメリカや先進国の人びと以外に説得力を持っているでしょうか。　（文＝土井利彦）

BOOK REVIEW

ぼくの・稲荷山戦記

著＝たつみや章　講談書文庫　552円

児童書を書いている大人は、子どもへのメッセージを持っている。大人から子どもへ伝えたいことがあるから書いてるんじゃないかな？　たつみやはかなり強烈だ。

日本は縄文から弥生へ、狩猟から農耕へ、山から平地へという流れできていると、一般的には考えられている。地域差もあるし、明治までは山で暮らしていた人もいたが、たぶんそんなところだろう。

今では「神さま」なんて言ったら、日本ほどたくさんの宗教が混在している国もない。しかしながら、初詣に行くのは神社やお寺だし、合格祈願や安産祈願もするところはやはりメジャー級神社仏閣だ。困ったときの神頼みをして、毎日信心してるわけじゃない。

じゃあ神さまってなんだろう？　今日の占いカウントダウンなんて毎朝やってるけど、見てる人も結構いる。

ノリだよ。正月は初詣のノリで行く。受験には合格祈願をしないと、落ちたとき「やっぱ、行っときゃよかった」と後悔するから、念のために行っておく。今日の占い見たって何かが変わるわけじゃない。きっと初詣したって、合格祈願したって、自分の努力しかないことぐらいみんなわかってる。人生を神さまに本気で預けちゃってる人なんてたぶんいない。（だから早く本の紹介をしろって！）

人は信じてきたから、自然を守って来られたんだよ。

この一言に尽きるから、まあ読んでみてね。ピーターパンに出てくるティンカーベルは子どもに「妖精なんていないよ」って言われると、死んじゃうんだ。（文＝早崎眞佐子）

Exhibition REVIEW

エコ・プロダクツ 2007

2007/12/13-15, 東京ビッグサイト

「エコ・プロダクツ 2007」は多くの NGO や NPO、学校および大手企業が参加する「環境製品」を中心とする展示イベントです。過去 40 年の間、エコノミストと環境保護グループ、産業と環境保護運動との間には常に葛藤がありました。しかし、この「エコ・プロダクツ 2007」ではそうした立場をこえて地球温暖化・環境破壊防止のための持続的解決策が示されました。

最近、ほとんどの大手企業は社会的責任 / 持続性を念頭においた「CSR レポート」を毎年発表しています。このような企業声明を含み、2 日間の会期中、50 以上もの団体の人たちと接することができましたが、そのほとんどがより持続可能な世界を創ろうとするために誠実な努力をしていることがわかり、感銘を受けました。

生活の質を高める非鉄金属、環境管理、再生、電子材料、金属加工、熱の処理を含む広範囲なビジネス展開をする Dowa グループは、廃棄物処理、土の再利用、再生ビジネスによるリサイクル志向の社会創造のために社内の環境保護も推進しているそうです。また、シャープのソーラーパネルのテレビ工場、三洋電機の充電池や環境にやさしい洗濯機などにも感心しました。

多くの NGO や NPO、学校の活動にもふれることができました。学生たちによる効果的なキャンパス環境マネジメントシステムを開発した千葉大学、すばらしい環境教育カリキュラムを開発した東京羽田にある高校。NPO SOFT ENERGY PROJECT は、神奈川、東京の周辺地域の学校の学生に太陽エネルギーと風力のような柔らかな再生可能エネルギーを紹介しているグループです。また、NPO ジャパン・フォー・サステナビリティは環境問題に関するセミナーを実践しており、Be Good Cafe は地場産食材のレストランを出店していました。

すべての展示製品が二酸化炭素排出の減少を助け、解決策として有効であるとは思えませんが、会場内にはそのアイデアがあふれていました。エコ・プロダクツ展は、環境と持続可能社会をテーマにしたこの種のイベントでは世界で最も大きいイベントの 1 つで、「エコ・プロダクツ 2008」が今年も 12 月 11 ～ 13 日に開催予定です（http://eco-pro.com/）。また、4 月 19 ～ 20 日に代々木公園で開催される「アースデー」もおすすめです。アースデーは、世界中の 10 億人の人々が参加する、1960 年代に始まった環境保護運動のルーツ的なイベントです。

（原文＝ポール・シェファード／翻訳＝編集部）

Exhibition REVIEW

家具の生まれた自然環境

～北欧モダン デザイン＆クラフト～

2007/11/3-2008/1/4 東京オペラシティギャラリー

ヤコブセン、ヴェグナー、アールト…。建築や工業デザインの専門家でなくても、こういった名前を聞いたことのある人は多いと思います。北欧の家具はシンプルかつ機能的なデザインで知られます。今回は北欧の地形・気候など環境に基づくライフスタイルや思想から、どのように家具デザインが生み出されてくるのかに注目してみました。

会場の説明文によると、北欧ライフスタイルの根本理念は、自然との共存、家庭と地域コミュニティを社会の中心とする優しさと手助けの心があること、また他人の生き方に干渉しない、とのこと。そして家具ですが、素材の多くがオーク（ナラ）をはじめとする広葉樹であること。これはヨーロッパでは群を抜いて高い森林率（60 ～ 70%。他は 30%くらい）からくる恵まれた森林資源を活用したものです。オークは木目がはっきりし、特に柾目が美しく家具に適していて、安価なビーチは加工性に優れています。

また、ペーパーコード（イスに使う編紐）、そして最も有名な積層合板の曲木など、北欧家具独特の加工技術は、もともと第二次大戦中の鉱物資源の欠乏時、それに代わる材料として地場産木材を利用するために、そり、スキー、荷車、船などの伝統的なクラフト技法が再認識されたことが発端で進化したと言われています。

さて、会場内に集められた機能性に優れた多くの家具の中で、特に椅子について感じるのは、椅子単体というよりは、そこに身を委ねる人と一体になる時、特に側面からのフォルムが美しいこと。美しい姿勢は心を緩やかにし、座り心地がよければバランスもよいので長持ちします。末永く使用できるものが、時間的にも環境的にも優しいのではないかと思いました。

ヤコブセンの椅子

会場にはトーベ・ヤンソンの童話「ムーミン・シリーズ」の原画もありました。1948 年の第 1 作『ムーミン谷の 11 月』にはこんなことが書いてあります。「やがてムーミンやしきには松林のにおいが流れ込んでくるのです。松葉を食べて冬眠に入るムーミン谷の人々（妖精）たち。それぞれ木々には妖精が住みついています。そしてムーミン谷にはヘムレンさんという植物学者のおじいさんもいます。ヘムレンさんはいつも何か探ものをしているのです」。

心ある北欧の芸術家やデザイナーたちの中には、進化した木材加工技術や洗練されたデザインの浸透による大量生産の結果として生じた世界の森林乱伐などの環境破壊に、警鐘を鳴らす人もいます。生産量を減らして経営維持するにはコストを上げる必要がある…。ムーミンの精神のように、現代・過去・未来・自然環境との共生を大切にする生き方、そして作り続けなければならない北欧家具産業の葛藤も少しだけ感じました。

（文＝緒方恵一）

インタビュー

小金井市環境市民会議の平井正風（せいふう）代表ってどんな人？

武蔵小金井駅南口のジャノメ通りにある平井さんのお店「風の庵」で2月某日、お話をうかがいました。「風の庵」の串焼きは絶品ですよ！

Q 代表は水生生物にお詳しいですが、水生生物との出会いは？

A：生まれは北海道で4歳のとき東京にきましたが、その後もときどき北海道に行ってて、小さい頃から生き物たちとよく遊んでいました。高校のあと2年ほどフリーターで30くらい職を転々としたあと、生き物の中でもあまり人がやっていない水産系の分野に行きたいと思い、日大農獣医学部（現：生物資源科学部）の水産学科に進んだんです。スタートが遅かったから、早く元をとろうと思って1年生のときに入ったのが海洋プランクトンの先生の研究室で、学生時代は研究室に入り浸ってました。

卒業して就職したのが環境系のコンサル会社。1970年代半ばで、日本中があちこちで開発されているときでした。発電所やダムの建設に先立ち、環境への影響などを事前予測するアセスメントの仕事に配属され、日本各地の海や川に調査に出かけました。その仕事を通して川（淡水）の水生生物に出会い、同時に土地のおいしい魚や郷土料理にも出会ったわけです（これが「風の庵」の料理に反映されています）。

Q 小金井にいらしたのは？

A：昭和59（1984）年に野川沿いに引っ越してきたんです。中央線はぼくの好きな川釣りに行けるのが魅力でした。当時の野川はまだ汚れていて、川底も見えず、くさい臭いがしていました。生き物もイトミミズやユスリカくらいしかいませんでした。それが昭和61年くらいから下水道が整備されてくると、急速にきれいになってきた。その頃、春雨の合間に川をさかのぼるギンブナの姿を見て、「この川は生きている」と感動しました。と同時に、目の前の川で生き物を勉強できることがわかってうれしかった。

こうやって、ぼくは野川の生き物に関わるようになったんですが、仕事も忙しくて最初から市民活動に興味があったというわけではないんです。活動に関わるようになったのはカミサンにそそのかされて、動く児童館「わんぱく号」に参加したのが最初かな。アセスメントの仕事なんかもしていたので、それからは「いろいろできる便利な人」ということで（笑）、引っ張りだされるようになりました。

Q そんななか、居酒屋「風の庵」を昨2007年7月にオープンされましたね。

A：サラリーマン生活30年、もう飽きちゃったというのが正直な気持ちです。で、昼間は環境活動のたまり場、夜は居酒屋というようなスペースを作りたいと思っていたんですが、今のような形になりました。しかし、サラリーマンというのは自営業に比べればラクですね。高収入だし、時給を計算すると本当にすごい。かといって、この仕事に定年はないし、もうサラリーマンに戻る気はありませんけど。定休日（月曜）以外は朝9時半に家を出て夜中の2時ごろ帰りますから、休憩を除くと1日14～15時間ほど働いている計算ですか…。店を始めてから、体重が10キロ減りました（笑）。

Q ご自身は「環境」を意識した生活をしていますか？

A：環境のことを考えながら、いろいろなものを使うようになりました。ガスも水も自動車も…。意識するかしないかが、大きいと思うんです。言いたいのは「できることすりゃあ、いいの！」ということ。1人の一生懸命よりも、みんなのちょっとずつ。これが大事だと思います。

Q 子どもたちへのメッセージは？

A：命の大切さを感じられる人に育ってほしいですね。植物も昆虫も魚も犬や猫もみな、人間以外の生き物には言葉がありません。だから、彼らが今どんな思いでいるかを感じてほしい。ぼくはサラリーマンのときも、1日に一度は外に出るようにしていました。日に日に変わる公園の草花や木を見るのが楽しみでね。そうやって命の大切さを感じながら大人になると、異なる価値観を認めあえる人になれるような気がするんです。そして、それが世の中で起こっているいろいろな問題を解決する力になるんじゃないかなあと思う。ぼくは子どもも生き物も大好きですから、将来子どもたちに「あの人たちがこんなヘンな世の中をつくったんだ」と言われたくない。これからも居酒屋をやりながら、自分にできることをやっていきたいと思っています。　（インタビュー＋文＝宮本幹江）

コ・ラ・ム

田んぼ物語【5】ニッポニア・ニッポン

新潟長岡の法末（ほっせ）へ、「鳥追い」行事の復活に同行する機会があった。田んぼから追われる鳥といえば、まずスズメが一番に思い出されるが、調べてみると、あの朱鷺（トキ）も追われる鳥に含まれていることがわかった。ひと山越えた魚沼地方に残る鳥追い唄には「佐渡ヶ島まで追ってった」という文言もあるという。事実、佐渡だけに朱鷺は残っている…。

ドジョウを求めて、植えたばかりの田んぼに入っては苗を踏み荒らしていたのだろう。ドジョウは人にとっても貴重なたんぱく源。命の糧をめぐって、人と朱鷺はもっと至近距離で向きあっていたに違いない。

「追う」という行動も気にかかる。防鳥とか駆除という発想になりそうなのに、追い払うだけ。そこには、追い払いながらもゆるやかに棲み分け共存する発想が見える。「ほーい、ほい」という唄の掛け声にはそんな優しさがある。それにしても、追い払うほどに朱鷺がいたということなのだ。

夜、子どもたちの「鳥追い」について集落を練り歩くと、明かりのない家（空家）の多さに気づき、震災の爪跡と限界集落の現実を見た。

子どもたちの鳥追い唄が響いたのは何十年ぶりなのだろうか。朱鷺もさることながら、かつて鳥を追っていた「子ども」たちも姿を消している。

（絵＋文＝瀧本広子）

こがねいかんきょう ＊ 意識（？）調査

みなさんが小金井にきた理由はいろいろあるはず。でも住みはじめて、今はどう思ってるんでしょう。『環境市民会議』なんて堅苦しい名前のもと、「かんきょう、かんきょう」って、何かやってる人たちも一般市民。そんなフツーの人たちが地元をどう思ってるのか、聞いてみました。

Q1: なぜ小金井に住んでいるのですか？
Q2: 実際に暮らしはじめて何を感じましたか？
Q3: 環境市民会議へ入ったきっかけは？
Q4: 環境市民会議のどういうところがいいですか？
Q5: 新しく小金井に来た人（これから来る人）に教えたい小金井のおすすめスポットは？
Q6: あなたにとって小金井とは？

A1: 今通ってる大学があるから。大学まで徒歩 30 秒！　最高です。安心しすぎて、よく授業に遅刻しますが…。
A2: 自分の田舎の静岡県富士市よりも、みどりが多いことに驚きました。あと、とにかく寒い！！！
A3: 2006 年の環境博覧会のお手伝いをさせていただいた時から、皆さんに誘われていたからです。
A4: 市民と行政と大学とが、一緒になって活動しているところです。地域の環境を考えるとき、様々な主体の視点があるほうが、だんぜんおもしろいので。
A5: 武蔵小金井駅 3･4 番線ホーム（きれいだし、デザインが、かっこいい）。明光義塾武蔵小金井校（ヘンな先生と、元気な生徒がたくさんいます）。
A6: 自分が成長するためのヒントが、たくさん転がっている街！　これからの子供たちにも、小金井でのびのびと成長してほしいです。みんなで市内の素敵な環境を、彼らに残してあげませんか！！　（遠藤友章）

A1: 以前、暮らしていたロンドン市北部に雰囲気が似ているからです。多分、2 つの大公園（小金井公園、武蔵野公園）があるからでしょうか。
A2: その 2 つの大公園以外に緑がほとんど残っていないこと。
A3: 息子の通っている保育所が野川や武蔵野公園の原っぱで目一杯遊ばせてくれるので、子どもの“原風景”としての環境を守りたいと思ったからです。
A4: いろいろな立場や考えを持った地元の人たちと交流できることかな。法律や生き物や食べ物や緑、サクラ、ゴミに詳しい人、外国の人、それに普通の人も。どちらかと言えば、楽しいところがいい。
A5: 原っぱの向こうの静かな苗木林。はけの小道。小金井には、いい意味でのゆとりがいろいろ（住宅／環境／人）あるので、SOHO（自宅兼事務所）をやる人にはおすすめの土地です。ゆったりまったり、矢野顕子『自転車でおいでよ』がに合うまち。カフェ「いるか屋」「出茶屋」... きりないね。
A6:（ちょっとさめてて悪いんだけど）水と緑？... まだわからない。乱開発も少し目にするので、これからを見守りたいですね。期待してます！　（緒方恵一）

A1: 結婚を機に、夫が住んでいた小金井の宿舎に移ってきたんです。
A2: 学芸大学の脇に住んでいましたが、周りに緑が多く、落ち着いたまちであることです。
A3: 環境、特に「水」に関心があったので。地下水位の調査を始めると聞き、地下水測定部会に参加しました。
A4: 一人ひとりが思いを持っている「集まり」であるところですね。
A5: ハケの森の湧水、六地蔵の井戸、三楽の森のたんぽぽ、学芸大学の桜並木、などなど。（結局みんな水がらみなのね？）
A6: 生活の場であり、ホッとするところであり続けてほしいなぁ... と思ってます！　（小山美香）

A1:（購入の動機ですが）住宅地としての評価が高かったから。緑が多いし、住民の民度が高い。それに、都心から遠くないので通勤にもよいと思いました。
A2:（約 30 年前に杉並区から転居したんですが）空気のきれいさに驚きました。転居後何ヵ月かたって小金井の空気に馴染んだからか、都心に通う中央線で荻窪より都心に入ると息苦しさを覚えた経験があるくらいです（今は感じないが）。自宅ガレージの車が汚れなかった（今は残念ながら違うんです）。購入時の期待はすべて満たされた。いい街でしたねー。
A3: 環境基本計画策定委員だったのでそのままの流れで。趣味の渓流釣り、鮎釣りを通じて水、川についての関心が高かったので、退職後は関連した活動をしたいと思っていたんです。
A4: いろいろな人（老若男女・官・学校）と話ができる。趣味の同好会と違って達成感、使命感を感じることができる。サラリーマン時代の経験を生かせる。
A5: やはり野川ですよ。くじら山周辺、野川公園周辺の景観は東京中を探したってありません。現在、自然再生法に基づいた湿地計画が第 1 調節池を中心に市民参加で進んでおり、ますます注目されるでしょう！
A6: 小金井は人口１１万のこぢんまりした街です。地域での活動をできるだけ続けたいと思います。　（藤崎正男）

A1: 多摩地区で土地を探していて、なかなか決め手がなかったとき、前原町の植木畑でころんで土がつき、決まり。
A2: 武蔵野自然公園が今のように整備されていないため、藪やら沼地があって、何かおどろおどろしく、謎めいたところが気に入っていました。成長した我が子は実家に来て、今の公園を見て、きちんとしてきてつまらなくなったと言います。
A3: 自然を通して子ども達の環境教育のお手伝いがしたい。
A4: それぞれが関っていることを基にした議論がおもしろい。
A5: 武蔵野自然公園内の街路樹の苗園（特に桜の頃）。
A6: 都会の田舎。駅に降り立ったときの田舎感がいい。
（千村裕子）

コ・ラ・ム

ゴイサギ（幼鳥）
Nycticorax nycticorax

ホシゴイ（ゴイサギ幼鳥）

立春の雪。日没を 30 分ほど過ぎた頃、白い息を吐きながら野川沿いを歩いていると、薄暗い川筋を低く影が飛びすさる。ゴイサギだ。夜行性の彼らにとって、これからが活動の時間である。

緩やかな流れの岸に降り立った姿をよく見ると、淡褐色に白い斑点を散らした体色の幼鳥だった。降りしきる雪のなか、外灯の光がきらめく水面をまじろぎもせず見つめている。

（絵＋文＝高橋利行）

わたしの好きな小金井の風景

季節を感じさせる野川添いの散歩道

我が家には今年９月に 16 歳になるおばあちゃん犬パピがいます。散歩を始めたのは、パピが我が家にやってきたときからです。

15 年間、飽きもせずパピと歩いているのは野川沿いの２本の道です。一つは、天神橋の脇を下に降りた河川敷の道。もう一つは、野川に沿って中前橋を渡らずまっすぐ行く、くじら山原っぱまでの遊歩道です。春はベニシダレ、ウコンの桜、ヤマザクラ、背の低いツツジやアベリア、レンギョウ。また、歩道に沿った家々の花壇の花も手入れが行き届き、競いあって咲いています。

昨年の夏は暑かったためでしょうか、エンゼルトランペットが 12 月初旬まで咲いていました(写真)。白､黄色、ピンクと３色ですが、なかでも黄色い花は朝日に映え、最高です。秋から冬にセンダンが特長のある黄色い実をつけると、実をめがけて鳥たちがやってきます。真冬の寒さが残る頃は梅やロウバイの香り、ウグイスの笹鳴き、アオジやジョオビタキ、メジロ、小鳥たちが手の届きそうなところで飛びかっています。２月半ばには、ツグミを見ました。

夏の終わりから秋にかけて荻かススキの根元に、ナンバンギセルを見ることもできます。ただ野川の水量が一定していないのが残念です。

２月に入り、２週続けて雪が降りました。子どもたちはソリを出したり、雪だるまを作ったり思い思いに楽しんでいました。四季折々楽しめます。

（文＝柏原君枝）

玉川上水と小金井桜

玉川上水両岸の小金井桜は色とりどりである。およそ 270 年前に植えられ、その後多くの人々によって植え継がれてきた。

現在の桜並木にはいろいろな桜が混ざっている。主体はヤマザクラだが、オオシマザクラ、カスミザクラ、オオヤマザクラが各１割以上の割合で混ざっている。ソメイヨシノが 20 本、シダレザクラも１本あるのはご存知だろうか。

日本の桜の主流となっているソメイヨシノは、どの木を見ても同じ花が咲いているが、ヤマザクラの場合は違う。花の咲く時期、花の色、形、大きさ、花と同時に現れる若芽の色など、詳しく見れば同じ桜はないといってもよいほどである。

小金井桜で一番早く開花する木は 119 番の桜、喜平橋の下流、北岸のひときわ背の高い桜である（写真）。この桜は３月 20 日前後に開花するソメイヨシノよりも、早く咲くことが多い。付近の農家の人はこの桜を「彼岸桜」と呼ぶが、たぶん昔から農作業開始の目印として利用してきたのではないだろうか。この桜が満開になる頃から、ほかのヤマザクラの開花が始まる。

ヤマザクラの花は、三分から五分咲きの頃が一番美しいと思う。１本１本の桜に夢中になっていると、つい並木の美しさを忘れてしまうことがあるが、色合いの異なる花びらと色目のちがう若葉の色が混じりあった美しさは、表現のしようがないほど美しい。

桜の花が散りはじめる頃、ケヤキなどの木々の若芽が萌えてくる。それ自体は自然現象でいたし方ないことではあるが、桜の保全の立場からみれば全くありがたくない。真夏に玉川上水の緑道を散歩された方はご存知であろうが、繁茂したケヤキの葉が上水全体を覆い、その下は昼間でも暗い。明るい空の下で育つ植物である桜にとってはたいへん迷惑な話である。

もともとこの堤には桜以外の樹木はなく、その情景は広重の画いた浮世絵にも残されている。玉川上水が淀橋浄水場へ都民の水道水を運ぶ水路として機能していた間は、この堤に生えるケヤキやクヌギなどの雑木は、常に１本残らず刈りとられてきた。

小金井桜が国の「名勝」に指定されたとき、玉川上水の堤には桜と芝しかなかった。私は小金井桜の現状を知って以来、国の名勝がこのままでよいのだろうかと思いつづけてきた。平成 15（2003）年に玉川上水が国の「史跡」に指定され、東京都もやっと本腰を入れはじめたように思われる。一気に全部が変わるとは思えないが、少なくとも希望が持てる。

太陽の光をいっぱいに浴びれば、ヤマザクラは元気を取り戻し、補植も可能になるだろう。そうなれば小金井桜は地元の貴重な文化遺産として､いつまでもその景観を保ち、歴史を伝え、訪れる人々の憩いの場となり続けることができるに違いない。

（写真＋文＝石田精一）

関連市民グループの紹介

トンボの会

トンボの会は小金井のごみを考える市民グループです。1993年に発足しました。

これまで、二枚橋周辺の土壌のダイオキシン調査（行政とのクロスチェック）、市内の小型焼却炉の調査、日の出町にある最終処分場の安全性の検証を求める陳情、市民検討委員会の内容に関する陳情、講演会やシンポジュームなどを続けてきました。ごみ関連の見学会や周辺自治体のグループとの交流も行っています。

現在、小金井市のかかえるごみ問題について、「トンボの会フォーラム2008」として、新たなごみ処理の方法などについて、市民の目線で市民の立場で考えようと活動をしています。今年の2月11日には、瀬戸昌之農工大学教授を招き、現在開催中の市民検討委員会の委員たちと市民との意見交換を行いました。

トンボの会は市内在住でごみに関心のある方でしたら、誰でも参加できます。年2回のニュース発行、隔月の定例会のほか、学習会なども行っています。

●今後の活動予定

4月11日午後2時から、公民館緑分館で市の出前講座「小金井市のごみ処理計画」を予定しています。どなたでもご参加いただけますので、参加ご希望の方は下記までご連絡ください。

●連絡先

トンボの会・市原賤香（しずか）　tel. 0422-55-4767

北欧楽会

北欧楽会は1997年2月に誕生し、ちょうど満11年になります。地方自治を中心に据え、人々に質の高い公共サービスを提供することによって福祉をはかり、ユーザー・デモクラシーの思想が根づいている「先進国」北欧5か国をいいなあと思っている会員が、毎月集まってさまざまな分野から北欧を知り、楽しんでいます。

この2月まで月例会は113回を重ね、特別講演会や年1回の北欧フェスティバルも催してきました。北欧の専門家や北欧の国々出身の方だけでなく、旅行した人、留学した人、興味をもって勉強した人などが情報を発表し、ともに考え、味わい、話しあえる場となっています。

毎年、1年間の例会やフェスティバルの内容をまとめた報告集を発行し、昨年は「10周年記念誌」として多くの寄稿や感想文も載せました。テーマ別のリストをみますと、教育、政治・経済、環境、男女平等、人権、芸術、旅や生活、文学と歴史など幅広いものになっており、質の高さを多くの方に評価していただいています。

●今後の活動予定

3月例会は、3月26日（水）13：30～15：30、公民館本館視聴覚室にて、フィンランドのシベリウス・アカデミーに留学されたピアニスト飯田佐恵さんによる「フィンランド音楽修業」のお話とピアノ演奏の予定です。

4月例会は、4月22日（火）10：00～12：00に公民館本館にて、会員の寺西英三さんが「北欧のエネルギー問題」についてお話しいたします。どなたでもご参加いただけますので、参加ご希望の方は下記までご連絡ください。

昨年11月の北欧フェスティバルの様子。上は在日16年のスウェーデン人、ペオ＝エクベリさん（環境コンサルタント）の講演。下はスウェーデンの民族楽器ニッケルハルパの演奏。

●連絡先

北欧楽会・宮本純子　tel.fax. 042-392-8069

コ・ラ・ム

コスミレ
viola japonica

コスミレ

梅が咲き、コブシが大きな蕾をほころばしはじめると、枯れ草の中から伸びてきた小さな野草が地面を緑色に覆いはじめる。オオイヌノフグリやハコベ、ホトケノザ、カタバミなど背の低いものからカラスノエンドウも若い芽を伸ばしはじめる。

そんな暖かい春の散歩のなかで、ぽつぽつと咲き始めたスミレを見つけると思わず散歩の足がとまる。さわやかな風を一杯に受けて可憐な首をふるわせながら、再びめぐってきた春の明るい日射しをしっかりと浴びている。畑の縁や生垣の下に今年も元気に咲くその姿にほっとする。

（絵＋文＝串田光弘）

関連市民グループからのレポート＆ニュース

新潟県長岡市法末集落 訪問記

～遊び・文化と子どもたち～

小金井にプレイパークを作る会　代表　田頭祐子

集落の小正月行事＜賽（さい）の神（かみ）＞に合わせ、プレパ親子 19 名で、今年も雪の法末（ほっせ）を訪問しました。

集落のお年寄りとの交流を軸に、ふんだんなプログラムの２日間でした。雪で遊び、かんじきで山に登り、集落に残る＜鳥追い歌＞を教わって夜の地域を練り歩き、かまくらを掘り、雪灯篭を作り、囲炉裏でおたふくや恵比寿様のモチせんべいを焼き、２日目の朝はもちつきの音で起こされ、集落の民家でおばちゃんたちに＜粽作り＞を教わり、小正月行事＜賽の神＞に参加し、またソリですべり…、もっともっと遊びたいと歓声をあげる子どもや大人たちです。

「限界集落」といわれる法末では、子どもの声が響きません。一方、都市化の進行によって気がつかないうちに、私たちの暮らしから遠ざかった農の文化や遊び環境。互いに出会えば、互いの価値が再確認されます。竹と縄で作られたかんじきをはいて、子どもはすぐ上手に雪山を登りだします。久しく途絶えていたという鳥追いの行事も、子どもたちが来るというので復活、集落の方々に逆に懐かしがられました。雪や風をよけ意外と暖かいわらぼしをかぶり（写真下）、拍子木を打ち鳴らしながら集落を練り歩いたあとは、子どもたちはかまくらの中でおやつを食べ大喜び（写真上）。熊笹を三角に畳み、すげの紐で結ぶ粽作りは母たちがハマリました。指導してくださった集落のお年寄りの晴れやかな笑顔は、誰の胸にも焼きついたことでしょう。

子どもたちの日常から失われつつある豊かな自然と遊び、農の文化。これらの交流経験から、さらに子どもの日常が豊かになるよう願ってやみません。

江戸の名勝「小金井桜」を江戸東京野菜とともに！ 春うららの「お花見弁当」フェア を開催します。

今年もお花見の季節がやってきますね。今年は小金井市内の 10 の飲食店が、江戸東京野菜をつかった特製お花見弁当に挑戦します。仕掛けたのは、江戸東京野菜で小金井の農業を元気にしたいと活動している NPO 法人ミュゼダグリ。小金井市内の飲食店がこのような形で手をとりあうのは初めてです。小金井市、JA 東京むさし小金井経済センター、小金井市商工会などの協力で、新しい「小金井の食文化」を PR したいと思っています。（写真は「ブルーム＆ブルーム」の春いなり弁当）

●期日＝３月 29 日（土）～４月６日（日）の土・日を中心に開催
●方法＝市内 10 の飲食店で、持ち帰り用のお弁当＆オードブルを販売
●お問い合わせ＝ NPO 法人ミュゼダグリ　tel.042-380-6771

コ・ラ・ム

捨吉庵（すてきちあん）むじな噺（ばなし）

東小金井駅南口から、南に向かって栗山通りを抜けていきますと、連雀通りにぶつかります。さらに南へ、はけの道へ続く坂を下りますと、都立武蔵野公園の緑が目の前に広がってまいります。

隣りあう野川公園との間に、今は閉鎖された二枚橋の焼却場跡地がございますが、そこは昔、二枚橋の幽霊が出た所でございまして、何ともいたわしき恋物語が言い伝えられております。

その昔、上染屋の名主の息子と小金井村の山守の娘が見初めあい、橋のたもとで逢瀬を重ねておりました。その日も二人は目と目を見合わせ、手と手を重ね、いつまでも一緒にいたいものよと時のたつのも忘れておりました。

日も暮れてまいりますと、どこからか男どもが現れて名主の息子を捕らえて殴るやら、蹴るやら、ひどい仕打ちをいたします。どうやらその男どもは名主のいいつけで、そんなことをいたしたようでございます。痛ましい恋人の姿を物陰からそっと見ていた娘は叶わぬ恋とあきらめて、野川に身を投げてしまったのでございます。

その後、名主の息子は娘が忘れられず、あとを追って娘が身を投げた川に身を投げたそうでございます。恋路を邪魔した恨みでございましょうか。この二人は死んで大蛇となり、橋に姿を変えては道行く人を川に落としておりました。

死んだ息子が大蛇となって人をたぶらかすことを知った名主は二人の供養のために、大木を挽き割って二枚の橋を造ったそうでございます。身を投げて幽霊になるくらいでございますから、当時の野川は深く、流れもあったのでございましょう。

（文＝早崎眞佐子）

環境市民会議 部会＆事務局だより

■ごみ部会（「TAMA とことん討論会」レポート）

東京・多摩リサイクル市民連邦（本部＝多摩市）が、２月２日に東京学芸大学を会場にごみ問題の討論会を開いた。全体テーマは「これまでの 15 年・これからの 15 年」。ごみ問題と向き合って 15 年、ライフスタイルにまでこぎつけた主催者は感慨深げだ。出たごみをどうするということから「ごみの出ない生活に」、言い換えればエコロジーとエコノミーのバランスが問われたのである。多少不便でもスローライフで人生を楽しもうと、学芸大学の木俣美樹男先生からも提案があった。単なるごみ問題をこえた、このレベルの高い問題意識は 15 年の実績がもたらした賜物だと思う。ただひとつ残念だったのは、進歩的な討論会に対して、交流会の質が今ひとつだったこと。スローフードで食器持参は無理な相談だろうか。　（中村良子）

■まちづくり部会

小金井街道と連雀通りの交差点より東側の沿道は、工事の真っ最中です。「まちづくり部会」はこの連雀通りを豊かな緑陰のある「緑の回廊」にしようと、「けやき」を計画図に書き込んで、小金井市に提出しました。

沿道にはバス停や公共施設もたくさんあって、「日赤病院行きのバス停の前には高齢者のためにベンチを設置する」「福祉会館や小学校の前などに桜を植樹する」など、意見も盛り込みました。でも、落ち葉や剪定など管理の問題がネックになっています。今後ＪＲの高架化に伴い、市内の緑道整備は確実に増えていきます。まちづくり部会は「防災」や「温暖化対策」にも効果がある樹木のプラス面を多くの市民に伝えて、特に地域住民の方々に理解してもらえる場をつくりたいと思います。ぜひご参加ください。　（杉本早苗）

■イベント部会

当部会は環境市民会議主催のイベントの企画・運営だけでなく、他イベントへの参加要請にも対応・参加を検討するグループです。これまで「環境博」や「施設見学会」「環境講座」などを手がけてきました。イベントの企画や運営を一緒にやっていただける方を募集しています。　（堀井広子）

■調査部会

3/10 に部会を開き、06 年から 07 年にかけて行った公園・緑地調査について話し合いました。小金井公園、武蔵野公園を除く約 190 か所の調査が終了し、これから手書きの調査票、見取り図、写真の整理とデジタル調査票への転記など、まとめの段階に入ります。調査部員を増やすのが課題です。（柏原君枝）

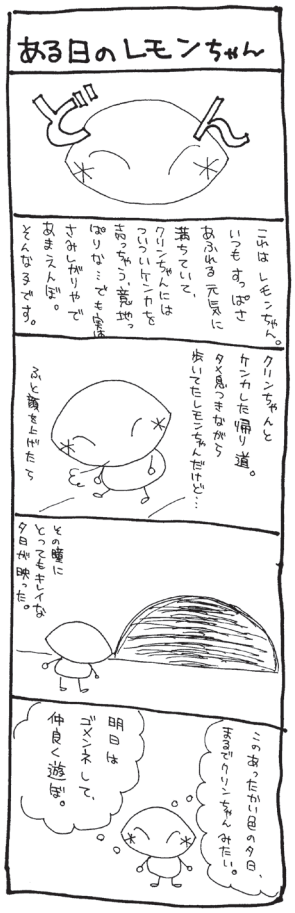
■地下水測定部会

うれしいことに測定対象井戸が増えそうです。新たに測定員も増え、測定チームを再編成します。また、貫井神社の湧水の測定方法も模索中。湧水測定ポイントも１ヶ所増えそうな感じです。市役所入り口の掲示も、より分かりやすいものにするよう、新しいものを作成中です。　（曽我信也）

■環境学習部会

今年度は学芸大現代 GP 他との共催で多摩川源流（小菅村）で木工教室、南小１年生の生活科の授業「秋探し」をお手伝いしました（千村）。「田んぼの時間」の新年度のテーマは、なつかしい「田んぼの風景」。「私の大好きな小金井の風景」を探したり、風景を彩るクラフトづくりを盛り込みながら、心地よい環境を探ります。４月２日より先着 40 名を受付けます。

（瀧本広子）



環境市民会議は「かんきょうの仲間」を募集しています！

小金井市環境市民会議では、一緒に「かんきょう」に取り組む仲間を募集しています。
現メンバーは社会人、学生などさまざまな人がいて、みなそれぞれの時間で活動に関わっています。
・今はこんなことやっている（考えている）けれど、１人なので仲間がほしい。
・すでに活動しているが、異なる活動をしている人たちと交流、情報交換したい。
・今は「かんきょう」のことをよく知らないけれど、もっと知りたい…、という方も大歓迎です。
詳しくは、下記ホームページまたはメールにてお問い合わせください。

編集後記

●環境って考えすぎたり、やってみるとけっこうキツイところもあります。これは環境のためと自分で思っていても、ある程度、経済性だって考えなけりゃ暮らしてはいけない。地球規模の環境と、子供を含めた日常生活の中での環境、なかなか結びつかないもんですが、家の近くでトカゲやカエルなんかを見たとき、少し安心します。そろそろ桜の季節、消え行くものの美しさを愛でる私たち日本人の感性ならば、変化する環境も自然のなすがままで受け入れられる．．．、おっと、いけない、いけない。　〈オ〉

●今年は２月が寒く庭の節分草や福寿草がまだ残っている。でも今日の暖かさで一気に早春の花が咲き出しそうだ。クロッカスが咲き、ムスカリやシラーの芽が伸び、我が家の庭も活気づいてくる。　〈ク〉

●春の訪れの指標に「花粉症」が登場したのはいつの頃から？　私にはもうひとつ、しもやけが…。なぜか極寒気より少し寒気のゆるむこの時期のほうが症状がヒドイ。かゆくなると私の春です。　〈ソ〉

●環境コンプレックス（決して人前で語らないでください！）

・地球温暖化は洗濯物がよく乾く。植物の育ちがいい。←たぶん村八分！
・冬は暖かくて暖房費の節約になる。CO_2 の排出量も減り一石二鳥だ。←おそらく石を投げられる！
・のどの渇きを押さえられず、喫茶店に入る金もない時はペットボトルの自販機の前に立つ。自動販売機万歳！←簀巻きにされて川に投げ込まれる！
・生ゴミだけだと燃えにくい。原油も値上がりしたことだし、紙もプラスチックもゴムも燃料にしたらどうだろうか？←袋だたきにされ、切り刻まれてゴミ袋に入れられる！（次号に続く！）　〈ハ〉

●生ゴミは乾燥すれば、問題の９割方は解決する。こう環境問題の先生に聞いたとき胸がストンとしました。じゃあ、プラごみは？　CO_2 は？　いろんなことをシンプルに考えられればいいですね。　〈ミ〉

小金井市環境市民会議会報［くるりん・ぱ］No.07
2008 年３月発行
企画・編集＝小金井市環境市民会議 事務局
（緒方恵一・曽我信也・多田岳人）
編集協力＝宮本幹江、串田光弘、瀧本広子、早崎眞佐子
制作協力＝小金井市 環境政策課
ホームページ　http://www.koganei-kankyo.org/
メール　jimukyoku@koganei-kankyo.org